



えん
社会福祉法人
同 胞 援 護 婦 人 連 盟

令和6年7月発行
第38号



こどものうち八栄寮
10歳女兒作

「ある兆し」

理事長 村松 満

月日の流れるのは早いもので、法人の計画的な運営を目指して策定した5か年の中期経営計画も、今年が最終の年になってしまいました。運悪くコロナが蔓延した時期と重なり、必ずしも計画事業全てが日の目を見るところまではいきませんでした。皆さんの協力を得、何とか一定の成果もあげたことは安堵するところです。

そんな中、八栄寮では例年春に実施される退寮生を送る門出の会と、4月に入って実施される新入学・進級を祝う会が催されました。コロナ禍中での「食事なし、マスク着用」の会から5年ぶりに解放され、顔の見える「当たり前」の姿がそこにはありました。

私も招待を受け、子どもたちと一緒にテーブルで楽しい時間を過ごしましたが、そこで、子どもたちがこれまでに比べ、一回りも二回りも大きくなったような印象を受けたことを報告しておきたいと思います。

それは、同席の子どもたちと食事をしながら会話をした際のこと、小学生の寮生が私を気遣って、「何か食べたいものがありますか。僕が取りますので」と言うのです。これには驚きました。これまで小さな子どもからそのような気遣いを受けた記憶がなかったため、ただ感心するやら、嬉しいやらで、頭を撫でたくなるような思いに駆られました。その後もいろいろと会話が弾み、将来の夢まで語ってくれました。子どもたちが、自分のことより他人のことを気遣う心をどこで会得したものか、八栄寮での養育の意義を垣間見た思いでした。

法人は、今年度中に次期中期経営計画を立てることになっています。その検討に当たって、何より大切にしなければならないのは、実は、上に記したような、施設での永年にわたる養育実践で培ってきた子育てのスキルと信頼なのではないか、施設養護の有り様が問われる中、そんなことを感じさせてくれた会でもありました。感謝したいと思います。

ところで、近頃珍しく夢を見たのですが、その中に八栄寮の寮舎が現れ、あの急坂と、なぜか大きなオリーブの樹があって、そこに実がたわわに実っている様子が脳裏に刻み込まれました。翌朝、気になってオリーブの花言葉を調べてみると、何と「平和と知恵」という大層縁起の良い樹であることを知り、一人、法人の行く末の発展を見る思いがして、嬉しくなった次第です。

「兆し」

こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

八栄寮の春は様々な花が咲く。梅から始まり、河津桜、ソメイヨシノ、八重桜、チューリップ、水仙、菜の花、そして筍が地中から芽を出す。

真冬には全く見られなかった光景だ。

しかし、注意深く目を凝らすと、木の枝には小さな芽がついている。春の兆しが、そこにある。

このような兆しは子ども達の成長にもみられるのだろうか？

先日、このようなことがあった。

変化がとても苦手な男の子がいる。

去年は、学年が変わると、学校で暴れてしまい、先生の眼鏡を壊すことが何度もあった。その都度、学校に行き、謝罪をし、その子を引き取った。特に春先がひどかった。

八栄寮内でも同様だった。職員が入れ替わると不安になる。こだわりが強くなる。思うようにいかないと物を壊す。その対応に職員は何時間も関わることが続いた。

4月を前に、今年もひと暴れするかなと職員は心配していた。

学校が始まって1週間、学校からの連絡はなかった。変化にぐっと我慢をし、年下の子には優しいお兄さんだったという。

その子もいろいろあったが、1年で成長したのだ。しかし、その「兆し」を見逃していた。

子どもの成長の「兆し」をつかむことがなかなか難しい。成長が見えたときにはじめて認識する。だから、「兆し」が見えなくても、きっとよい子どもの成長があると信じ、日々、職員は子どもと関わっている。



【各施設在籍者・利用者数】

(令和6年4月末現在)

こどものうち八栄寮 幼児5名 小学生14名 中学生16名 高校生9名 措置延長児2名 【計46名】	リフレここのえ 乳幼児 14名 小学生 12名 中高生 2名 【計16世帯44名】	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数 令和5年12月～令和6年4月末 ショートステイ 320名 トワイライトステイ 147名 合計 467名
---	---	---

「地域子育て支援」

こどものうち八栄寮 児童指導員 宮崎 美公

八栄寮に入職して十数年が経ち、現在私はショートステイの担当をしています。ショートステイを担当していると、様々な事情を抱えた地域のご家庭と関わる機会が多くあります。利用理由には、仕事・病気・リフレッシュ・出産等がありますが、最近のリフレッシュ利用も多くなっています。どのご家庭も子育てを頑張っており、子ども達も日々よく頑張っており、過ごしているのを感じます。子育てを365日24時間やる事は本当にすごいことだと思います。

利用人数も年々増えており、八栄寮では1日3名定員ですが、月初めにほぼ全部埋まってしまう。更に新規登録のご家庭も絶えずいて、使いたくても使えないご家庭もあります。このような現状を目の当たりにしていると、地域の子育て家庭のサポート需要はこの先も増えていく「兆し」を日々感じています。八栄寮だけでなく、世の中の的にも地域支援の必要性を感じつつ、今すぐの拡充は難しく心苦しい面もあります。ですが、現状は今の私達に出来る事を丁寧に続け、その中でより多くのご家庭がより良い使い方が出来るように、市との連携も大切にしながら良い地域支援をしていけたらと思っています。

「兆しを信じる」

こどものうち八栄寮 ソーシャルワーカー 佐藤 直樹

私はこどものうち八栄寮でソーシャルワーカーとして働いて2年目になります。まだまだわからないことも多く、手探りの毎日です。仕事をする中で、多くの家族と関わる機会がありました。その中で保護者の方から、最近こんなことがあって・・・と日頃の子育ての悩みを聞くことも少なくありません。例えば、幼児さんの食事についての相談、思春期に入ったお子さんとのコミュニケーション等その内容は多岐に渡ります。そのような話を聞いていて思うのは、中々当事者だけでは解決の兆しを見つけるのが難しいこともあるということです。私たちのような第三者が関わることで、その兆しが見えてくることもあります。もう少し身近なところでは、日々子どもやその家族との雑談の中で、「なんか元気出た。」「頑張ってみる。」というような言葉が返ってくることもあります。そんな些細な一言ではありますが、雑談をしていた相手が少し前向きになれるかなという兆しを感じます。そんな小さな兆しから始まる変化が、やがては子どもたちやその家族にとっての幸せとなることを信じています。これからも、日々の中にある兆しを感じられる人・職員でありたいです。



明るい兆し

こどものうち八栄寮 児童指導員 綿内 桃子

入職して3年目になり子ども達と関わる中で様々な兆しが見えてくるようになりました。私は今年度、同じ小舎での2年目がスタートしました。1年間見てきた子ども達の成長、そして成長の兆しが見えてきています。日々子どもと関わる中で、出来なかったことが出来るようになり始めている、自分から頑張ろうとしている姿が見られます。私はその姿を見て、去年よりお姉さん、お兄さんになろうとしているなと感じています。また、思春期真っ只中の子ども達も、悩みながらも自分の将来に向き合っていこうとする姿が見られ、私はその子どもにとっての幸せな将来を実現できるように支援したいと思っています。

自身の兆しとしては、子ども達との関わり方に対する思いが変わり始めていることです。私は今、日々雑務に追われ、任される業務も増える中、いかに効率よく雑務をこなし、子どもとの時間を取れるかを考えています。この考えは子どもとの話をする時間の大切さを昨年1年間で実感し、時間を上手く使いたいという気持ちの変化から来ています。まだまだ、上手くいくことは少ないですが、徐々にできるようになり子どもとの関わりに明るい兆しが見られるよう頑張っていきたいと思います。

「成長の兆し」

こどものうち八栄寮 児童指導員 山崎 まさ美

入職して初めての春を迎え、新学年に進級した子ども達が「お兄さん・お姉さんになったなあ～」と実感することが多く、とても嬉しく温かい気持ちになりました。まだ10か月目ですが、子ども達の様々な“兆し”を以前よりも感じられる様になり、子ども達の成長が益々楽しみになってきました。

入職当時は、良くも悪くも子ども達の真っ直ぐな言葉や態度に振り回され「好かれたい・嫌われたくない」と思えば思うほど空回りする日々でした。半年が過ぎた頃に、ふと「嫌われても仕方がない」と思える様になり、肩の力が抜けたのか不思議と子ども達との会話が増えていきました。忙しい中でも気持ちに余裕が生まれ、子ども達の様々な“兆し”を感じられる機会も多くなりました。

勿論、良い“兆し”ばかりではなく、残念な“兆し”もあり、全力で負の感情をぶつけられたり、嘘をつかれたり、トラブルや隠し事等があったりするとグッタリしてしまう日も少なくありません。

これからも、子ども達には様々な“兆し”があると思いますが、どんな“兆し”でも子ども自身の成長につなげられる様、職員の皆さんや子ども達と一緒に試行錯誤しながら、頑張っていきたいと思います。

「こどもまんなか社会の兆し」

リフレここのえ 施設長 横井 義広

昨年の令和5(2023)年は、子ども家庭福祉分野について、世間の耳目と関心が集まった年でした。令和4年に旗振り役としてこども家庭庁という実施機関の設立、そして昨年は、施策のために枠組みと中身についての議論が目白押しでした。具体的には、令和5年4月1日にこども基本法の施行、同年12月22日にはこども大綱が定められました。こども大綱は、これまで別々に作成・推進されてきた、少子化社会対策基本法、子ども・若者育成支援推進法及び子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく3つのこどもに関する大綱を一つに束ね、こども施策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定めたものです。今後5年程度の国のこども家庭政策の方向性を示すものであり、都道府県には「都道府県こども計画策定」を、市区町村には「市町村こども計画の策定」を努力義務としました。

リフレここのえで受審しているサービス第三者評価では、子どもの行事や意思決定のプロセスに子ども自身の参画をどのようにしているかということが求められています。リフレここのえでは、児童自立支援計画というものを半年ごとに、子どもと職員と一緒に作成しています。子どもたちには、「わたしの目標」という名称で伝えています。そこでは、必ず子ども自身の夢を聞いています。目標の項目が、出来ていないことを取り組むことばかりでは誰でもへこんでしまいます。何かに努力していくという行為はとても高度なことだと思います。スポーツ選手がオリンピックの舞台に立ってそこで表彰される、そこには相当な訓練を積んだのだろうと想像して、見る者の感動を生んでいるのだと思います。だから、子どもたちにも夢を語ってもらい、夢のためなら頑張れるかもしれないと希望を持って欲しいのです。ある小学4年生の女の子に夢を聞いてみました。「私はユーチューバーになる！」と言いました。「そのためにはどうすればいい？」と職員は聞きます。「パソコンを上手になる！」と答えます。「パソコン上手になるにはどうする？」とさらに聞きます。すると「タイピングするためにアルファベットをおぼえる！」と続けました。

毎日の学童保育の学習時間には、宿題が終わった後、子ども達はそれぞれ職員が用意した学習プリントに取り組みます。児童自立支援計画を立てた次の日、宿題を手早く終わらせてアルファベットの宿題に一生懸命取り組む小学4年生の子の姿がありました。



「自立への兆し」

リフレここのえ 少年指導員 坂本 一人

リフレここのえはご縁があって入所されたお母さんと子どもが安全・安心な生活を送れるように支援しています。そしてその家族が地域で自立した生活をしていけるように準備をしています。リフレここのえに入所したての頃は「こんなことまでしてもらっていいのかしら」となるお母さんも多いです。しかししばらくすると不満を口にしたり、反抗的な態度をとったりすることがでてくることもあります。

私はこのような変化は子どもでいえば反抗期のようなもの、自立ができるようになった兆しのようなものだと思っています。子どもは成長過程で反抗期があり、親や周りの大人に反抗的な態度をとることがあります。しかし反抗的な態度を出せるということはある意味「ぶつかっても大丈夫だ」という安心感や信頼感があってこそなのではないでしょうか。このような時期に本音でぶつかり、伝えるべきことを伝えていくことが大切で、反抗期が過ぎた後に「あの時はきちんと受け止めて貰った」と実感するのだと思います。

退所前に反抗的な態度をとっていたお母さんが数年ぶりに来所した際に「あの時は色々あったね。でも本気でぶつかってくれたのはリフレだけだったよ。」と笑顔を見せながらお話ししてくれたことがありました。これからもリフレここのえが何年経っても顔を出せる、何でも相談できる「実家」のようなところでありたいと願っています。

「母の覚悟」

リフレここのえ 母子支援員 古菌 梢

「兆し」の意味を辞書で引いてみると、将来的な変化や出来事の予測ができるようなしるし、手掛かりと書いてありました。これを見たとき、ひとりの母の顔が頭に浮かびました。その方は、非常に心配症な性格で、考えすぎて眠れなくなったり、身体の不調を起こしたりする方でした。時には涙を流しながら不安や苦しい思いを吐露する母の姿を見て、自分にできることは何だろうと自問自答しながら、ひたすら母の気持ちを受け止め寄り添い、背中を押すこともしながら支援を続けてきました。入所から半年近く経ったある時、その方から突然手紙を頂くことがありました。その手紙には、子どものことや離婚調停等に関する事に対して、しっかり向き合っていくという母としての覚悟が書かれていました。これを読んだ時、このお母さんなら大丈夫という変化の兆しを感じ、自分も非常に身が引き締まる思いになったのを覚えています。

私自身も昨年度は母子支援員としてリフレ再スタートの年で、身の回りの環境の変化も多く、それらに順応するのに忙しい日々を送っていました。2年目の今年度は、もっと利用者の方々と関われる時間を大切にし、また、一緒に働く仲間たちから職員としての成長の兆しを感じてもらえるよう、自己研鑽に励んでいきたいと思っています。

「兆し」を見逃さないこと

リフレここのえ 少年指導員 大田 航也

ある日、Aくんが玄関でふざけて自動ドアにぶつかり、エラーが出てしまいます。壊しちゃった…？と真っ青な顔になるAくんと、「Aくんが当たったんだよ」と職員に知らせる周囲の子。Aくんはとっさに「そんなに強く言わなくてもいいじゃん！」と泣きながら言い返し、一触即発の空気です。職員からまず事務所に報告・謝罪に行こうと話しますが、玄関で泣いて固まったまま。しかしよくみると、徐々にではありますが事務所のほうに体が向き始めています。私はAくんを「怒られるかもしれないけど、ちゃんと事務所に行こうとしてえらいよ、それで正解だよ」と褒めました。その後もじりじりと、一步近づき、褒め、また一步近づき、褒め…ようやく事務所に到着し、きちんと自分のしてしまったことを報告し、謝ることが出来、Aくんはその場の職員全員から正直に言えたことを大いに褒められました。

彼にとって「自分の間違いを認め、謝る事」はかなりハードルが高く、自分の気持ちとの間で葛藤がある中で、少し体が事務所に向いた、靴を脱ぎかけているなど、気持ちが変わり始めている「兆し」が見られました。どんなに小さな「兆し」であっても、それを取り上げ、職員はきちんと見ている・気づいていることを肯定的に伝えることが、子どもにとって大きな一步を踏み出す後押しになるのだと実感しました。今後も子どもが見せる「兆し」を見逃さず、エンパワメントが出来る職員でありたいと思っています。

その成長が未来を変える

オリーブみらい 塾長 内山 大樹

オリーブみらいは食事の提供と家庭支援を行っている無料の学習塾です。生徒の中には不登校や学力不振、家庭環境の課題など逆境にある子もいます。私たちは学習塾ですが、普段子どもたちと接する中で意識しているのは高校の合格だけではなく、さらにその先の未来です。

勉強ができなくても、苦手なことがあっても「人とうまくやっていく力」があればなんとか生きていかれるものです。ポジティブな考え方や、心を開いたコミュニケーションはそれだけで大きな力となります。表情の暗い子が塾で笑顔を見せてくれたり、大きな声で挨拶ができるようになったり、進んで食事の手伝いをしてくれるようになる。

毎日の些細な成長の積み重ねが人間を創っているのなら、そういう時に子どもの未来は変わるのだと捉えています。そういった「未来が変わっていく兆し」をいつも感じながら子ども達と関わっています。

資金収支計算書 令和 5 年度 社会福祉法人同胞援護婦人連盟

単価：千円

勘定科目		本部	こどものうち 八栄寮	リフレ このえ	子ども家庭 サービス	内部取引	合計
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	8,434	419,633	136,499	14,144	578,710
		経常経費寄附金収入	1,629	1,174	23	0	2,826
		受取利息配当金収入	5	9	7	0	21
		その他の収入	1,882	7,855	33	0	9,769
	支出	人件費支出	10,196	304,697	93,659	11,720	420,27
		事業費支出	915	65,997	7,566	945	75,423
		事務費支出	7,105	33,688	15,647	1,114	57,556
		その他の支出	0	3,005	0	0	3,005
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入					0
		その他の施設整備等による収入					0
	支出	固定資産取得支出	0	15,909	823	0	16,732
		ファイナンス・リース債務の返済支出	0	0	190	0	190
		その他の施設整備等による支出	0	0	0	0	0
その他の活動による	収入	積立資産取崩収入	0	3,703	184	0	3,887
		拠点区分間繰入金収入	6,520	0	0	0	- 6,520
	支出	積立資産支出	0	5,954	10,976	0	16,930
		拠点区分間繰入金支出	0	3,260	3,260	0	- 6,520
当期資金収支差額合計		254	- 137	4,624	365		5,106
前期末支払資金残高		195,756	115,665	34,621	1,766		347,808
当期末支払資金残高		196,010	115,528	39,246	2,131		352,914

※千円未満を四捨五入しているため合計数が合わない場合があります

～子どもたちのしあわせのために～

- 郵便振替 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 00110-1-499359
- ゆうちょ銀行 : 社会福祉法人同胞援護婦人連盟 019店 当座 0499359
 - ・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
 - ・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
 - ・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟 児童養護施設 こどものうち八栄寮 母子生活支援施設 リフレこのえ 八王子市 子ども家庭サービス事業 〒193-0944 東京都八王子市館町 2232-1 Tel:042-661-5891 Fax:042-667-0006 http://www.yasakaryou.or.jp (八栄寮 HP) http://www.doenfujin.jp (法人 HP)	編集後記 今月号のテーマは「兆し」です。新年度が始まり皆新しい環境で頑張っています。今回は子どもたちや職員の成長の兆し、更には法人を取り巻く状況の兆しなど、それぞれの「兆し」に着目してみました。皆様もご自身の身の回りの「兆し」を想像しながら楽しんでいただけたら幸いです。 【広報誌担当 花島まどか・馬淵将吾・星野大河】
--	---

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。